

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成27年7月30日(2015.7.30)

【公表番号】特表2013-535455(P2013-535455A)

【公表日】平成25年9月12日(2013.9.12)

【年通号数】公開・登録公報2013-050

【出願番号】特願2013-521074(P2013-521074)

【国際特許分類】

C 07 C 209/48 (2006.01)

C 07 C 211/09 (2006.01)

C 07 C 255/24 (2006.01)

C 07 C 253/30 (2006.01)

C 07 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 07 C 209/48

C 07 C 211/09

C 07 C 255/24

C 07 C 253/30

C 07 B 61/00 300

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年6月8日(2015.6.8)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項2】

D M A P N は、使用される D M A P N に対して、100質量 ppm 以下の D G N 含量を有することを特徴とする、請求項1記載の方法。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

WO 2007/128803の記載によれば、D M A P A の製造のために、一体製造法または一体装置が使用されることは、有利である。この場合、最初に得られた、D M A P N を有する生成物流は、さらなる工程でD M A P A に変換するために、直接使用されるかまたは後精製後に使用される。この場合、WO 2007/128803の教示によれば、D M A P N のD M A P A への還元反応のためには、この還元の際に使用される触媒のために、第1の反応からのD M A P N 生成物流の品質が決定的に重要である。従つて、WO 2007/128803は、D M A とA C N とを連続的な運転方式で反応させることによってD M A P N を製造する方法を教示しており、この場合最初にD M A および引続きA C N が連続的に供給され、およびこの反応流の変換は、第1の反応領域内で行なわれ、および少なくとも部分的に第2の反応領域内で行なわれる。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

開示内容によれば、D M A P Nの水素化の際に、WO 2007/128803の教示により2つの別々の反応空間内で製造されるD M A P NがD M A P N水素化に使用される場合には、水素化触媒の寿命は、延長されうる。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0054

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0054】

こうして得られたD M A P N中のD M A P N対D G Nの質量比は、有利に1000000  
0 : 1 ~ 1000000 : 300の範囲内、特に有利に1000000 : 5 ~ 10000  
00 : 250の範囲内、殊に有利に1000000 : 8 ~ 1000000 : 150の範囲  
内、殊に1000000 : 10 ~ 1000000 : 100の範囲内にある。